

第19回離島対策等検討会 議事録

1. 日時 2011年5月30日(月)15時00分～17時00分
2. 場所 日本自動車会館11階
(財)自動車リサイクル促進センター第2会議室
3. 出席者 藤井座長、大杉委員、渡邊委員
(財)自動車リサイクル促進センター事務局
経済産業省・環境省担当官
4. 議題
 1. 2010年度離島対策等支援事業 実績報告
 2. 2011年度離島対策等支援事業 活動計画
 3. 小規模離島市町村の要請手続きについて
 4. 離島対策支援事業 使用済自動車流通マップ初版発行について
5. 議事録 上記議題について、事務局より説明し承認された。

主な質疑・意見は次ページをご覧ください

【主な質疑・意見】

(注)◇は委員からの質問・意見 ◆は事務局からの説明

1)2010年度離島対策等支援事業 実績報告

(1)収支報告について

◇調査費及び理解普及活動費の実績が大きく減額しているが、今後、自治体に対する支援活動を縮小する方針なのか確認したい。

◆離島における自動車リサイクルが安定・定着化してきたことや中核事業者・核となる人の育成が一段落したことにより、現地に赴いての支援活動の頻度は減少傾向にある。しかしながら、育成未完了の市町村もあり、引き続き同様の支援活動を実施していく。

◇市町村別の実績を見るとまだ定常状態とは言えず、また、中核事業者が機能し定常状態にある市町村においても、今後、定常状態が維持できなくなることがあり得るため、中核事業者や核となる人の育成支援の完了をもって支援活動を終わりとするのではなく、継続的に現地にて支援されたい。

同じく、今後支援活動が何処を目指し、何に注力して行くかについて、本検討会で議論をし、共有化しておきたい。

◆定常状態にあるから支援活動を終了するというのではなく、市町村と定期的にコンタクトを取る等によって状況を把握している。今後についても、必要に応じて現地での支援に対応していく。

(2)小笠原村の輸送費について

◇以前にも議論がなされ、事務局より実現性が無いとの説明を受けたが、船賃が高額であるため、中長期的に見てもプレス機の導入により安価に事業を運用する方法を再検討されたい。

◆既に報告した通り、島内で解体業を生業としても採算が合わないことや他市町村以上に施設設置に対し考慮すべき点が多いこと等から、解体業の起業を含むプレス機の導入は難しい。

(3)燃料費変動の影響について

◇燃料費が上昇傾向にあったが、輸送単価への影響はなかったか確認したい。

◆定期運賃の改定に至る程の大幅な値上げは無く、単価への影響は無かった。

(4) 不法投棄対策支援事業について

◇具体的な事案があるのか確認したい。

◆相談レベルでは数件ある。自治体で調査・指導中の段階であり、引き続き、自治体と情報交換を進めていく。

2) 2011年度離島対策等支援事業 活動計画

◇離島の保有台数に対する事業活用の割合がどの程度の水準にあるのか。また、現状の課題及び今年度の活動計画を確認したい。

◆離島における申請台数保有比は全国の引取率を上回る水準である。特筆すべき課題は無いが、事業の活用率を示す申請台数保有比については市町村間に未だバラつきもあり、引き続き、市町村支援を実施していく。具体的には、中核事業者の育成支援、小規模離島における事業ニーズや認知度の調査、事業計画の精度向上に資する情報提供等を計画している。

3) 小規模離島市町村の要請手続きについて

◇弾力的な運用へ変更する趣旨については賛成であるが、その目的が予算執行率の向上にあるのか、他の理由にあるのかを確認したい。

◆対象市町村における事務負担軽減を主眼に置いている。

4) 離島対策支援事業 使用済自動車流通マップ初版発行について

◇流通マップは、これまでの事業活動を集約した社会的にも意味のある価値の高い情報であると思われる。

外部への公表を含め、より多くの関係者での活用を図り、事業に資することができないか検討されたい。

◆事業者毎の取引情報や個別に契約された海上輸送単価等が含まれるため、全ての情報を関係者と共有することはできないが、可能な形での活用を検討する。

以上